

神德經講義  
全

特35

863

014277-000-7

特35-863

神德經講義

桜木 松寿 / 編

M29

ABB-0619



教師檢定科目目録

扶桑教管長穴野健九殿 序歌  
扶桑教々師檢定委員總長大教正高崎市藏跋歌  
扶桑教々師檢定委員長中教正櫻木松壽述

# 神徳經講義

全

扶桑教々師檢定局

三輪の朝臣健九

石ころぬる我日本の

まきつゝあゝ業代

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

特35  
863

この神徳經はしも、其旨深遠して、尋きこと今更論ふへき  
にあらす、されは解明さんこと一日二日の暇以て得へからす、  
さるに今回教子より強ちに乞はるゝまゝに、辭みかたくて一  
わたりハ解さぬ、尙ほ詳解は他日ものゝ書くへし、千尋の深き  
に入るも淺きよりし、千里の遠きに行くも、一足より進み、富士  
の高根に昇るも、山の口よりすへし、此書亦山口なるへし

明治廿九年六月廿九日

花の舎松壽しるす

### 神徳經講義

大教正 高崎市 藏閣

中教正 櫻木松壽講議

### 神徳經

○神徳經とは、神の御徳を稱奉る祝文と云ふ意なり○神とは  
隱身の義なり易に陰陽不測之謂神の意にて測知べからざる  
者なり○徳とは得の義にて功業の成就し得たるを云ふ即ち  
太祖參神の功は天地萬物を鎔造して餘さず天地に先ちて始  
なく天地に後れて終なく廣大無邊の功業を成就し得たるも  
のならずや、されはこれ之を徳とといふ○經とは天地の常道

にして人をして以て分を守らしむる所なり近くは修身齊家の教も存し遠くは治國平天下の法も備はれり又た經はタテズチタテイトミフ杯とも訓む字にして機の縫糸を云ふこれ不偏不黨にして真直なるものなり

### 掛麻久毛綾爾畏久言麻久毛文爾齊志伎

○掛麻久毛言麻久毛は、共に同じこゝろにてかけるも云ふもと云ふ詞なり、そは、神の御名を口や言葉にかけて申すもと云ふ義なり○綾文は共に假字にて、歎息の詞なり、其は俗にア、ア、ア、ア、同じく、情の切にして思はず發する時の詞を云ふ○畏久齊志伎は、れをれいまゝ、しと云ふて共に恐れ多きことをいふ○以上の詞をつゝめて云へは神の御名を、口にかけて言葉にかけて申上ぐるもア、誠に恐れ多き事であるがと

### 大元乃父母爾坐須大祖參神乃宇頭乃大御前爾慎美敬比恐美恐美白左久

云ふ事なり○さて同じ事を、二句にわけ、あやなして云へるは、祝詞の文の常にてこの下にも多かれは讀人こゝろすべし○大元の父母爾坐須は、大祖參神を申なり○大祖參神とは天之御中主神、高御產巢日神、神產巢日神を云ふさて此三神は天地間の萬物を主宰給ひて、日月星辰森羅萬象みなことごとく、造り出し玉ひし神等なれば、造化の三神と申すなり○宇頭は、うつたかき義と、明らかなる義とをかねたる詞なり○大神前は、大も御も尊稱なり、前は神の前なり○慎美敬比恐美恐美白左久は、字の如し、白左久のさくは、すを延べたる辭なり

### 大祖參神乃靈妙志伎神靈乎仰奉留事波

○大祖參神は前に説きたり○靈妙志伎神靈は神妙不可思議なる神の靈德を云ふ○仰奉留は仰はあふむきと云ふ義にて神はすべて上部にましませは、上部に向ひて、たのみもし、いのりもすることを云ふ

神祇乃奇靈奈留乎毛日月乃靈妙奈留乎毛國土乃巨大奈留乎毛人民乃許多奈留乎毛始止志豆

○神祇は、天津神八百萬地津神八百萬の神々を云ふ○奇靈は、奇しく怪しき、神靈を云ふ、俗に奇妙不思議の御神靈といはんが如し○日月は眼に見ゆる日月なり○靈妙なるは四時寒暑晝夜の、運行悠久にして、たがはざるを云ふ○國土は、地球萬國を云ふ○巨大奈留は、地球は天の下にて尤も大なるものなれば、巨大なるとは云ふなり○人民は、字の如く人間といふなり

○許多奈留は、澤山なることを云ふなり○始止志豆は、茲迄は神々の、あやしき作用と日月の運行とを合せ、廣大なる地球と、澤山なる人間とを合せ對句にしてあげたり、是より下は、雜穀

金礦甲具艸木虫魚鳥獸の類をかゝる  
水田乃美稻陸田乃甘菜辛菜眞山乃鐵荒山乃金銀  
山野乃獸物人家乃畜物空行眞鳥土這布蟲荒磯乃  
小貝小川乃鱗千曳乃磐石汀渚乃眞砂千尋乃大樹  
二葉乃小草爾至留麻傳

○水田は、字の如く水田にて稻を作る所を云ふ○美稻は、稻は他の雜穀なり味甘くして、穀物の上位に居れば殊更美稻とは申すなり○陸田は字の如く水なき耘地を云ふ、○甘菜辛菜は、野菜の總稱なり○眞山は只山を云ふ、眞とは下の荒山に對し

て云ふのみ○鐵は金屬の根元なれば、眞金とは云ふ、眞は添たる  
るかり○荒山は只山のことで、前の眞山に對して云ふ○金  
は、黄金なり○銀は白金なり○山野の獸物は山や、野に、棲息す  
る、獸類を云ふ、獸物は、毛物の義なり○人家の畜物、字の如く人  
の家に畜置く六畜を云ふ即ち牛馬羊豕鶏犬是なり○空行眞  
鳥、鳥類はすべて、空中を飛行する者なればかく云ふ、眞は添た  
るなり○土遣布蟲虫類すべて、土穴に棲息して大地を匍匐す  
る者なればかくいふ○荒磯の小具、荒磯は只磯のことでなり、荒  
といふは、下の小川に對していふ○小貝、貝なり○小川乃鱗、  
小川は只川のことなり、小は前の荒に對して云ふ、鱗はすべて  
川魚をいふ○千曳乃磐石は只岩石のことなり千曳とは千人  
もかゝりて、動すべき程のおもき岩といふ意なり○汀渚乃眞

砂汀渚は波打際の義にて海邊をいふ、眞砂は砂のことなり○  
千尋乃大樹、千尋は、字の如くにして、五百丈も千丈もある大な  
る木といふ義なり○二葉ハ生初めたるはかりの、ちいさき草

千千乃物乎毛萬乃事乎毛

○以上いろとものものを、さしていふ、千千萬などいふは數の

多きをいふのみ

大伎爾毛小支爾毛

○大小ハ、物の大の限りと、小の限りをいふ

世間爾在止所在留物毛事毛悉久

○此ハ天地四方にありとあるものゝかぎり、みな漏さぬこと  
をいふ

造化利成志給倍留大祖參神爾大坐豆

○此は以上のもの、細大漏さず造化し玉へる、大祖參神に、まじ

ますとなり  
神祇乃勳坐々毛日月乃光輝留毛千千乃諸星坐々  
毛國土乃立榮留毛人民乃生育留毛

○以上の件は、よろづのものを、うみなし玉へるをいひて體を  
示し○此件は、神々を始め、日月星辰の運行より國土人民の年  
々歳々に増進する、活動を云ひて、用を示したるあり○神祇は、  
前の天神地祇を云ふ○勳坐々は五行分掌の神を始め、すべて  
の神々の功績あるをいふ○光輝は字の如く日月の無窮に光  
輝を失はずして、運行しつゝあるを云ふ○千千乃諸星坐毛は、  
多くの星辰のあるを云ふ○國土乃立榮留毛は、世界萬國の、年

月に増進して行くを云ふ○人民乃生育留毛は、人民の生成化  
育するを云ふ

皆悉爾是禮乃大祖參神乃大神意余里成坐留大神  
業爾志豆

○此は何も角も、みな別神にはあらず、これの大祖參神の御神  
慮にて、なし玉へる、神業であるとなり

此乃神慮爾漏豆波立事毛無久此乃神業爾洩豆波  
爲留事毛無久

○此の此のと、云ふは、みな大祖參神をさしたるなり、大祖參神  
の神慮と神業とに、もれたり落たりしては立行事も出來ず何  
事を爲す事も出來ぬと云ふことなり

天地泉爾貫徹里豆

○天とは、天國を云ふ、地とは、大地球を云ふ、泉とは、黄泉を云ふ、  
之を換言すれば、過去、現在、未來にして、天は、過去、地は、現在、泉は、  
未來なり、貫徹里豆は、即ち天地黄泉過去現在未來につらぬき  
とほりてと云ふことなり

千千乃物乃上爾毛萬乃事乃跡爾毛具利滿豆大伎  
爾毛小伎爾毛漏隈無久落事無久行足比豆  
○いろくくの物の上にも、よろずの事のあとにも、漏れ落つる  
事なく、行き届き具備りて、をると云ふ事なり  
尊支貴支廣支厚支大神德乃中爾毛辭更爾奇支靈  
支靈魂乎銀杏乃父命止柞葉乃母命爾授給比依志  
給比豆

○こは、かように、たつとさ廣大無邊なる御神徳の内にも、別け

て奇妙にして測り知るべからざる、靈魂を、父母の兩親より御授  
けくたされてと云ふ意なり○靈魂は、たまはりひと云ふ、辭の  
つゞまりにして賜火の義なり、さて、人は生きて居る程へ、あた  
ゝかなれど、死ぬればつめたくなるなりこれ即ち賜火の元つ  
所にかへる所以なり○銀杏は、字の如くぎんなんの成る木を  
云ふ、さるは此木大きくなるに隨て乳房の如きもの垂れ下る  
故にちゝのみとは云へるなり兎まれ角まれ父にかゝる冠辭  
なり○柞葉は、マヲの木なり柞葉細而密とあり詩に維柞之枝  
其葉蓬々とあり木にトゲありて冬は葉の枯るゝ木なりこれ  
又母にかゝる冠辭なり○依志給とは御依托し玉へる義なり  
生誕與利歲經留麻邇麻邇心淤能基羅志米  
○此は、うまれいでゝより生長するにしがつて、れのがつて、れのがつて、



心の堅固にかたまり行くを云ふ○年經は、年を経かさぬること  
とを云ふ○麻邇麻邇は、まゝにと云ふことにて、したがつてと、  
いはんが如し○心は、こゝは精神といはんが如し○澁能著羅

志米は、れのづから疑しむるの義なり  
赤根刺日乃野干玉乃夜止替行支花咲支句布春乃  
朝黄葉散志久秋乃夕止來經行我如久

○此は、只朝夕春秋と、消行ことを文なして、いひたるのみにて、  
即ち年月のたつことをいふ○さて赤根刺は、日にかゝりたる、  
冠辭なり○野干玉も、夜にかゝる冠辭なり○花さきにほふ、黄

葉散志久は、何れも、春秋といはん爲の助語なり  
身化志後爾還原給布神乃御制奈留乎毛在世間種  
々乃心想爾自然靈魂乃挾迷比繫禮豈

○此は、死したる後に大祖參神の、御許なる元の所よかへした  
もふ御定なるも、生て居る内にいろく、さまことの思や考に、  
自然と靈魂の、まよひ、しはられてといふことなり○身化は身  
罷の義にて、この世より、かの、天國なる大祖參神の御許へ罷至  
るといふ意なり○還原給布とは、大祖參神の、御許ひにて、かへ  
したまふことなり原とは、即ち大祖參神の御許なり、そは、元と  
大祖參神よりたましひを賦與せらるればなり、こゝに於て初  
めてたましひの語賜火の、所以たるを、知らるゝなり○神の御  
制は、大祖參神の定めたまひし幽冥の神律天憲なり  
常暗成須梧界爾墮苦麻牟時波祭主乃祭留神事聞  
食豆暗支所乎照志明志令還原給布不可思議靈德  
具備坐爾依利

高天能神魯神魯岐神魯美奇支御靈乎幸比給幣止  
一向爾大神名乎唱奉都都

○此は、前件を承け、たましひの、さまよひつながれて、くらき辛  
き、つらき、所に陥りて、くるしまん時は、神を祭る役人の、御まつ  
りすること、よく大祖參神の聞受めされて、くらき、からき、つ  
らき、ところを、あきらかた、御てらし、なされて大祖參神の御許  
なる、元の所へ、かへし、くださる、奇妙不思議にして、測り知る  
べからざる御神徳の、そなはり、ましますによりてといふこと  
なり○常暗成須はくらきことに、かゝる冠群なり○悟界は、憂  
苦なる魔界をいふ○墮苦は魔界に、墮落して、苦しむを云ふ○  
祭主は神職教職何れにまれ、祭事を主る、役をいふ  
祭主は神職教職何れにまれ、祭事を主る、役をいふ

己我意想乎太祖參神乃賦與介給比志靈魂止添豆  
業成須心根止結比合志豆動支散介流事無久眞靈  
乃底比願奉里賴奉里豆婆

ふことなり○高天能神祖は、天之御中主神を云ふ高天能とは  
北極紫微垣即ち天の上局に、ましませは添て申すなり○神魯  
岐とは、高御産巢日神を云ふ○神魯美とは、神産巢日神を云ふ  
○奇支御靈は測り知るべからざる宏大無邊の神靈と云ふこ  
となり○幸比云云のサキは、サナと同じく得の義にて、即ち得  
を與ひ玉へと云ふことなり、得は、何にまれ、己の身に受くる幸  
福を云ふ

○此は、自分の思ふ事を、大祖參神の、御授けくたされし靈魂と、  
又活動なす心と、結合して動くことなく散ることなく精神の

あらん限り、御願申し、頼み申してはと云ふことなり。○業成須  
心とは、こゝろは、たましひと違ひ善惡とも、活動するものか  
れは、業成須とは云へるなり、さて、たましひと、こゝろとの事に  
付ては、頼る云ふ事あれども、外に云へんと思へは、雀きつ  
米久志止毛阿多良志止毛宇武賀之美賞給比憐給  
比豆請願申須事乃由乎聞食豆相諾奈比給比相穴  
奈比給比相助氣給比相幸倍給比豆

○此は皆神に願ひて惠を請ふ詞にして、繰返し打返し續成し  
盡したるは、誠にめてたし。○さて、米久志とは、めぐきなど、同  
じく、かはゆき意なり。○阿多良志は、惜む詞なり。○宇武賀之美  
は、うれく思ふ意なり。○諸奈比、穴奈比は、共に事がらをよしと  
受引扶け玉ふ詞なり。

生涯所業乃善事乎。八十枉津日乃爲牟禍事爾。相率  
里相口會事無久守給比幸比給比豆

○此は、生きて居る内に爲して行く、善き事業に、八十枉津日と  
云ふ、わろき神の、主るよからぬ事に、まじり合ふ事のなきよう  
に御守護くたされといふ事なり。○生涯は、生て居る内、一パイ  
を云ふ。○八十枉津日の神ハ伊邪那岐神の御子にして、夜見の  
國の、汚垢によりて所成る神あり。○禍事の、マカは、死ぬること  
を、マカルといひ物の直あらざるを曲ると云ひて、何れも、よか  
らぬ、ことなれば、其こゝろにて、わろきことをいふ。○率里とい  
交込の義にして一しよになるを云ふ。○口會は、話合ふ意なり。  
天雲乎蹴散志墮來留大雷乎毛。

○雷は雲間より落來るものなれば、かく云ふ、下みな之に準ふ

べし、蹴散志は、ケを延べてクエと云へたるにて、蹴散らすことなり

大地乎震動志寄來留地震乎毛。

○地震ハ、大地をゆるがし來るものなるによりて、かくいふ、さて、震動は、字の如く、ゆすり響くことをいふ

燃火乃熾奈留乎毛。

○火の熾に荒び須佐武をいふにて、大火の義なるべし

大洪水乃漂來留乎毛。

○此は、字の如く大洪水にて水の押て來るをいふ

劔刃以豆斬由留危難乎毛。

○刀劔にて斬らるゝはかりの、危きけんの場合をいふ

○キラコルといふはキラレルの本語なり

箭玉乃一速支當留勢乎毛。

○矢や鐵砲玉の、するどく當る勢をいふ○一速とは一ハ假字にて、稜威の意にて、進むことの早きことをいふ、即ち威勢のするどきとなり

荒山中乃猛獸。

○猛獸はすべて、山中に棲息するより云ふ○猛獸とは猪、狼、虎

深谷乃大蛇。

○蛇の類ハ、多く人氣疎き、深林幽谷に、棲息するものなればか

飛鳥這蟲乃災乎毛。

○鳥類はすべて、空中を飛行する故に、鳥のことを、飛鳥といふ

ひつ、虫類は土上を、匍匐するによりていふ、災乎毛とは前の落  
雷より、すべて災害を、押しなべしいふなり

自然無意身乎逃、豈災害事無久。

○自然ハ思ハすに、自分の身にはづれて、災のかくらぬるを云

ふ○無意ハ知らずくといはんが如し

大海原乃逆卷浪毛、平穩示靜麻里、豈大舶小船乃覆  
沒留事無久。物氣疫疾乃煩無久。

○海の怒濤も靜まりて、大きらるふねも、ちいさき船も難船す

ることなく又ハ附物マ、はやり病を煩ふ事なくとの義なり○

大海原ハ大海を云ふ、原と云ふハ、高天の原又野原な、と同じ

く廣く平かなる所を云ふ○逆卷浪はさかしまに、山なして卷

き來る浪を云ふことなり○物氣はつきものなり○疾病は時

疫と云ふではやり病を云ふ

亦女子乃開胎爾當、豈波病事無久。惱事無久。安良爾  
產志米給比其母毛、幼兒毛健爾日足志米給比。

○婦人の兒を産む時には、何れどもなく無事に安産して其う

みし母も生れし嬰兒も、たつしやれ、日立たしめ玉への義な

り○開胎はうむ月の義なり、されどこ、はうむときをいふ

凡豈雜乃凶事波吉事止反志給布、大支太志伎大神  
乃恩賴乎請願奉留事乃由乎。

○此はおしからめて、いろくのわろきことは、よき事に、引か

へし玉ふ、廣大なる大祖參神の御恩賴を、乞ひ奉り願奉る、こと

がらをと云ことなり

大祖參神遠始米、豈天神波天磐門乎押開支天之八

重雲乎。伊頭乃千別。豆聞食志。地祇波高山之末短山之末爾上坐。豆高山之伊穗理。遠撥別。豆聞食志。

○此ハ前の件の事がらき、大祖參神を始め奉り、天津神八百萬、地津神八百萬の、神等もろとも、に聞受めされてと、いふことなり。○天磐門は天上にある、神の宮の門なるべし、磐とは門の堅固なるを美稱たるなり。○八重雲ハ只雲のことなり、八重とは、必しも八段に重なりたるにあらず、只數の多きことを云ふ、雲は幾重にも重なりて見ゆればかく云ふなり。○伊頭は稜威にて、勢の強きを云ふ即ち威勢の鋭きことなり。○千別は道を別くることなり。○山之末とは山の頂上を云ふ、そは山ハ下をふもと、云ハはなり。○高短は對ひていひたるのみ。○伊穗理は、

いふりて、今も煙ることを、いふると云ふが如く、こハ山の氣の立昇りて山を掩ふ霞の如きものをいふ。  
**不意過犯事乃在良武遠婆。**

○此は知らず、手落間違の、ありたらん時をほと云ふことなり。○不意とは心に思はぬことを云ふ。  
科戸之風乃天之八重雲乎。吹放事之如久。朝之御霧夕之御霧乎。朝風夕風乃吹拂事之如久。大津邊爾居大船乃舳解放。舳解放豆大海原爾押放事之如久。遺罪波不在止。祓比給比豆。

○此は風の神の吹かせ玉ふ、風にて空中の雲を、ふきはなつやうに、又朝夕のきりき、朝夕の風の、ふきはらうやうに海邊に繋ぎ居る大船を、舳網舳網を、ときはなちて、大海の沖中にはなち

やるやうに、少しも遺る罪咎は、なしとはらひ玉ひてと云ふことなり○科戸之風は、風神を科津彦、科津姫と云へば、此のかせの神のかせと云ふことなり○天の八重雲は前にあり、天とは雲ハ空中に棚引けるものなるによりていふなり○朝の御霧夕之御霧とは、きりは日中より、朝夕、れほく立つものなれば云ひたるのみ○大津邊とは船の泊つべき大きなる港を云ふ○船解放、船解放ハ、舟の先綱と後綱をとき放つことなり○大海原は只うみのことなり原とは、前にいへり

**真心乃底比祈禱白須事乃状乎愛見行志愛聞食豆奇支御靈乎幸給幣止奉請願止白須。**

○此ハ心一パイに御願申し御祈り申す事がらき、カワイイと、眼に見耳に聞められて、測り知るべからざる、廣大無邊の御神靈

を與へ玉へど、乞ひ願ひ奉ると、申すといふことなり○真心ハ誠の心を云ふ、底とは上にまれ下にまれ、縦横にまれ、至り留りたる限りをいふ、されはこゝは誠のこゝろ一パイにど、いふことなり○祈禱はこひいのることなり○事の状は、ことのあるさま姿といふことなり○愛といふはめることにて、かわゆくれもふ意なり

### 高天能神祖神魯岐神魯美奇支御靈乎幸比給幣。

○高天能神祖神魯岐神魯美奇支御靈乎幸比給幣ハ本文中に説きたり、此の御神名を幾度も幾度も御唱申して御祈り申す限りは、幸護の感應疑あるべからず、慎みて、莫慮りを穴賢

## 神德經解義終

大伴の武備

大和神のうき

幼神を多し

ふみこねや此種又

明治廿九年六月廿九日印刷  
明治廿九年七月五日發行

編輯者

東京市芝區神明町廿五番地寄留

櫻木 松 壽

發行者

東京市芝區神明町廿五番地

扶桑教々師檢定局

扶桑教々師檢定局

代表人 高崎 市藏

東京市芝區濱松町壹丁目十五番地

森田 覺太郎

印刷者

東京市京橋區鈴屋町十三番地

山村 活版所

印刷所



